

【事業名】欧州電池規則に準拠したCFP/DDアプリケーションの開発・実証

事業者名：ウイングアーク1st株式会社

実施期間：令和7年9月～令和8年2月

1. 事業の背景・目的

本事業へ取り組む理由が3点ございます。

第1に、弊社は2022年にサプライチェーン排出量・カーボンフットプリント（CFP）の算定アプリケーション「EcoNiPass」を開発・リリースし、また2025年7月には「サプライチェーン上のデータ連携の仕組みに関するガイドラインβ版」の「API仕様書」に基づき、Ouranos Ecosystemのデータ連携システム層との接続機能も開発しております。さらなるCFPデータのサプライチェーン間連携の高度化に向けて、基盤要件設計を主管するデジタルアーキテクチャデザインセンター（DADC）や基盤の運営団体である自動車・蓄電池トレサビリティ推進センター（以下、ABtC）と連携機能要件を議論し、いち早く、追加される拡張連携要件を実装していく所存です。

第2に、弊社の「EcoNiPass」について、現時点（2025年8月22日）では200社に利用いただいているのですが、来る欧州電池規則やエコデザイン規則、CBAM（炭素国境調整メカニズム）への対応に向けて、サプライチェーン間でのCFPデータの連携に課題を抱えられております。弊社は、今後も継続して、弊社事業者がシームレスにサプライチェーン間でCFPデータの連携を実行し、欧州法規対応を実現するために、Ouranos Ecosystemのデータ連携システム層との接続し、かつ、人員かつ資金に余力のない中小・中堅サプライヤーでもCFP算定に着手できるための活動量入力や算定を自動化した、安価なアプリケーションを開発していく必要があります。

第3に、弊社のクライアントに蓄電池メーカーがいるのですが、同社の欧州電池規則に準拠したCFP算定及び人権・環境DD、適合性評価対応を支援する必要があります。弊社の「EcoNiPass」についても適合性評価に備えて、CFPデータや人権・環境DDデータについてサプライチェーン間での連携に係る機能を開発する所存です

2. 補助事業の概要

第1に、Ouranos Ecosystemの「データ連携システム層（基盤）」におけるCFP/人権・環境DD連携機能の追加要件に対応したアプリケーションを開発し、ユーザーテストを実現させました。現在、本事業を経て開発した「データ連携システム層（基盤）」への接続機能について、ABtCが運営する「Ouranos Ecosystem対応アプリケーション認証」を受けるべく、受験プログラムを対応進めています。

第2に、欧州電池規則の要求する適合性評価（第三者認証）に必要な検証用データの出力・連携機能を開発し、ユーザーテストを実現させました。また開発した機能について、欧州系の第三者検証機関に紹介した上で、画面や機能要件へのフィードバックを頂戴しました。

第3に、CFP算定実務者がより効率的に算定業務を遂行できるべく、活動量データの自動登録機能、排出係数の自動提案機能を開発しました。

【概要図】

